



発寒ひかり  
保育園だより

2026年  
1月号

巻頭言

私の好きな歌に「こころのねっこ」という歌があります（別紙参照）。人の育ちを木に例えると、乳幼児期は根っここの部分。しっかりと育まれた根っこは、やがて葉を上げらせ、花が咲きます。乳幼児期のこころの根っここの育ちが生きる力の土台となるのです。

先日、S君（5歳児）がおやつを食べていると、おやつと、牛乳の入ったコップが一つずつ残っていることに気が付き「Aちゃん（2歳児）の残ってるよ」と教えてくれました。「どうしたらいいかな」と聞いてみると、S君は少し考え、困っていたAちゃんの手をとっておやつの所まで一緒に行き「どれくらい食べられる？」と聞きましました。そして、上手く答えられなかったAちゃんの様子を見て、S君はおやつを小、中、大に分け「どれがいい？」と聞き直しました。するとAちゃんは指を差して答えることができたのです。Aちゃんにはおやつを手渡し、S君はコップを持って、一緒に席まで行きました。その時の二人はとても良い笑顔で、互いに照れているような、でもとても嬉しそうな表情をしていました。

S君は「Aちゃんには（牛乳の入った）コップを運ぶのが難しいと思った」と後で話してくれました。S君なりにどうしたらいいか考えた行動だったのだと、私は胸が温くなりました。

S君の他者を思いやる心や、対話し自分で考えて行動する力は、こころの根っこがしっかり育っていたのだと実感させられるものでした。

「ここで過ごした毎日がみんなのこころのねっこになれ」と願いながら、これからも子どもたち一人ひとりに愛情を注ぎ、豊かな経験ができるよう努めていきたいと思います。

とまとファミリー担任 小林 遥